

# 第 38 回スキルアップセミナー in 東京

## 開催報告



開催日時：H28 年 10 月 9 日（日）13 時～17 時までの実質 4 時間（受付 12 時 30 分～）

開催場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

共催：ラックヘルスケア株式会社

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

### 開催目的

- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
- ベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法が理解できる。
- 食べる力を引き出す、ベッドサイドスクリーニング評価の方法を理解することが出来る。  
グループ毎のレディネスに沿った演習を通して、自施設においての実施に繋げることができる。

### KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧

<敬称略>

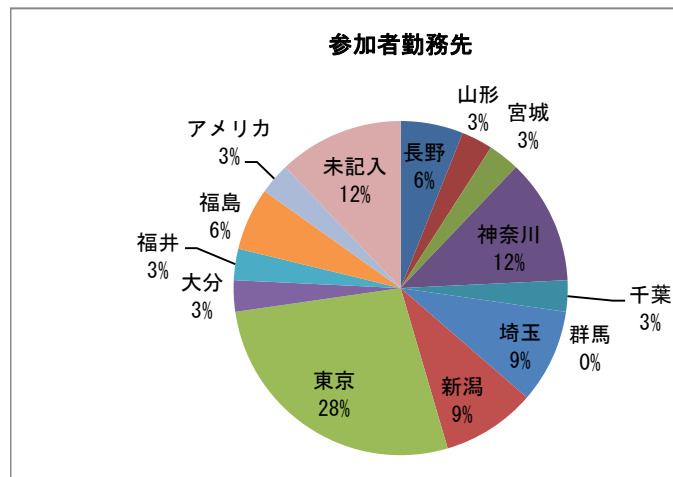
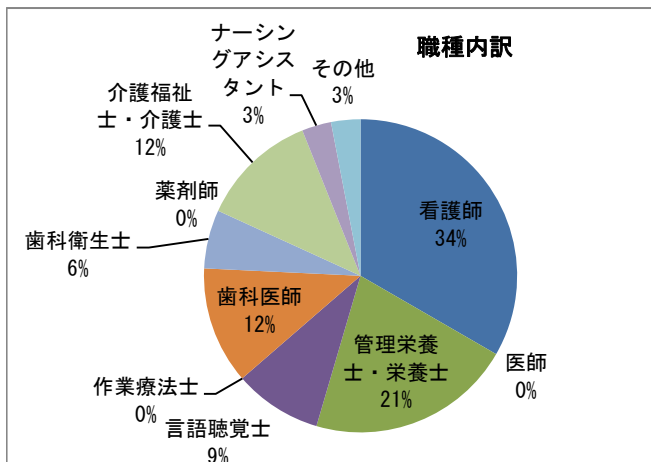
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
竹市美加	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
大谷愛子	医療法人 マイスター アペックスメディカルデンタルクリニック	歯科医師 KTSM 実技認定者
山下ゆかり	医療法人社団永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 KTSM 実技認定者
砂山明子	都立駒込病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
上野美幸	山梨市立牧丘病院	看護師 KTSM 実技認定者
剣持君代	群馬リハビリテーション病院	看護師 KTSM 実技認定者

セミナーサポート一覧

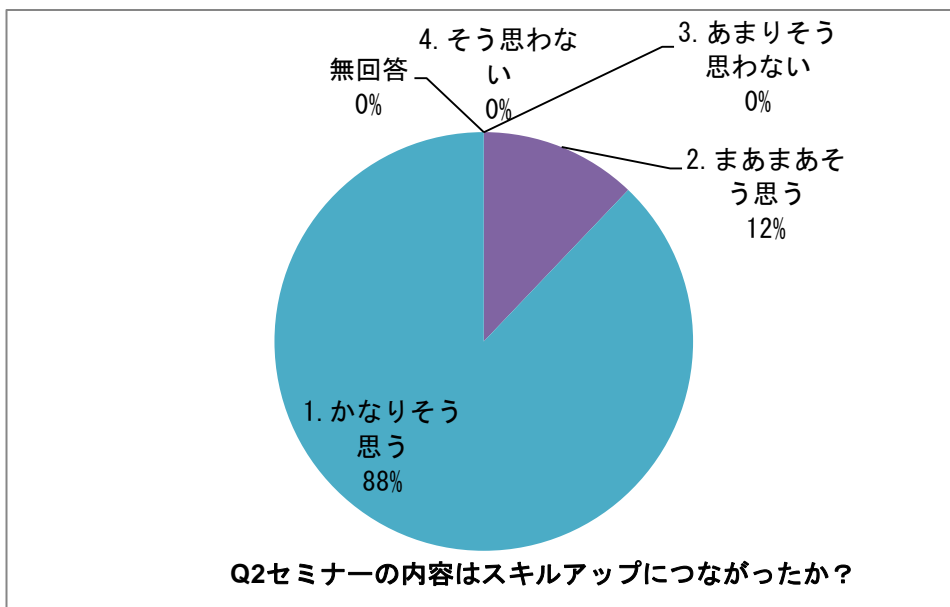
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
福岡碧	NPO 法人口から食べる幸せを守る会®	事務員
斎健太郎	ソフィア総合ナースステーション城南	摂食嚥下障害看護認定看護師
古山梨佐		看護師

アンケート集計結果（参加者 32 名 回収率 100%）

Q1 職種と勤務先の都道府県



Q2 セミナー内容はスキルアップにつながったか

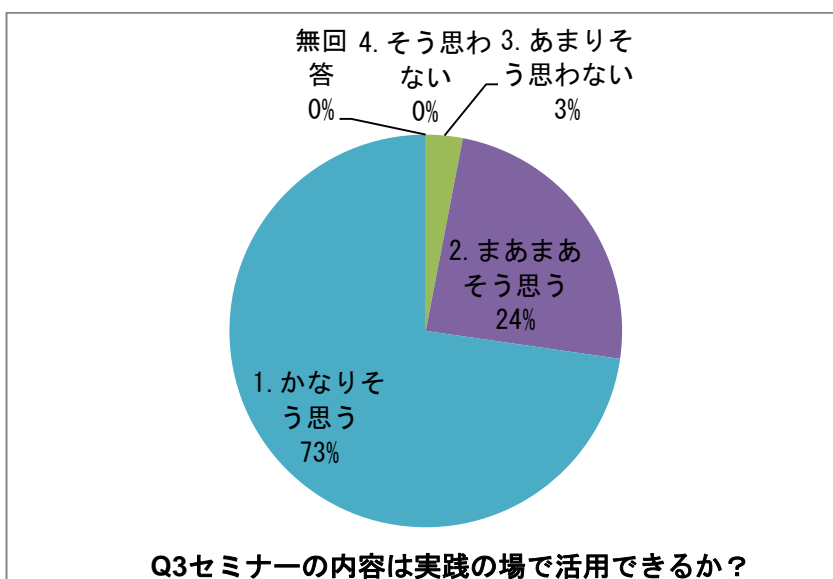


無回答	0
4.そう思わない	0
3.あまりそう思わない	0
2.まあまあそう思う	4
1.かなりそう思う	29

## Q2 コメント

- ◇ 技術・注意する点などが分かった。在宅に戻る患者が多いため、その辺りの工夫ができればよいか。
- ◇ ベッド上での食事介助をする機会は当施設ではないので、車椅子上でテーブル上での食事のすすめ方など詳しく知りたかった。今後必要な技術ではあった。
- ◇ 実際に患者役をしてみて、どんな感覚なのかが分かったので、今後病棟で食事介助をするときに注意していかなくてはならない点が良く分かった。
- ◇ 本とかで勉強してみても、本当に自分のやり方が良いのか分からなかった。自裁にやりながら見てもらえると自信がつき、間違っているところが分かった。小さなことも気が付けて良かった。
- ◇ 基本的なポジショニングから、スプーンを入れる角度など、普段の介助を見直すことができました。
- ◇ 基本の見直しとKTバランスチャートの活用方法について理解できた。目的とするところは直接指導頂き、達成しました。あとは自己学習をすすめます。
- ◇ どうしても緊張してしまつてうまく介助の方法を学ぶ事ができなかつたと思いますが、今後も勉強していきたいです。
- ◇ 知識・技術ともに多くのことを学びました。
- ◇ 介助する事・評価する事に気が向いてしまい、相手がどこを向いているかを考えていなかった。患者側を体験することで改めて気付いた。
- ◇ 誤ったやり方に気付くこともためになりました
- ◇ 姿勢・食具など食べるためのちょっとした工夫によってむせずに食べることができるのでは？
- ◇ 介助の際、スプーンで舌に設置する位置が日常時よりも更に奥だという事が学びました。
- ◇ スクリーニングテストは、これまでのやり方では患者様に不安を与えていたと知りました。ひとつひとつの動作が大きな意味を持つと知ったので、しっかり内容を復習して少しでも患者様の力を引き出したいと思いました。
- ◇ 姿勢・視線や介助速度で機能を引き出せる点、また抑制になってしまう点。
- ◇ 毎日の業務の中で食事のラウンド、食介助をすることがある為、ポジショニング、スプーンの入れ方などを気にしていけると思う。
- ◇ 介助される側の立場もよく理解できた。
- ◇ 口のどのあたりに入れると飲み込みやすいか自分でやってみて分かった。
- ◇ 根拠に基づいた施術。大変参考になりました。
- ◇ 今回で3回目になります。最初は聴診器も車椅子も使った事がなく、全てが初めてでしたが、2回、3回と回を重ねるごとに少しずつ身につけてきました。
- ◇ 細かな声掛けでの視線の促しなど、改めて重要性を実感できた。
- ◇ 食介助のコツが分かってよかったです。今までのやり方だと不安があったので学べて良かったです。又、患者役になってみて患者様の気持ちが少し分かったように思います。
- ◇ 今回が3回目ですが、まだまだ教えるまではいかないと思うが、少しずつ実践を活かして食べる楽しみを伝えたい。
- ◇ 先生がおっしゃっていた「こうだからできない」ではなく「どうすればできるか」と常に考え、口から食べることがいかに重要か一人一人の評価をし、ケアをしていきたいです。
- ◇ 実際に、車椅子に座り全介助して頂く立場になり、入所者様の立場に立った食事介助の支援の仕方が少し分かりました。
- ◇ 実際に経験し大変勉強になりました。少しあきらめかけていましたが、再度挑戦してみようと思いました。

## Q3 セミナーの内容は実践で活用できるか

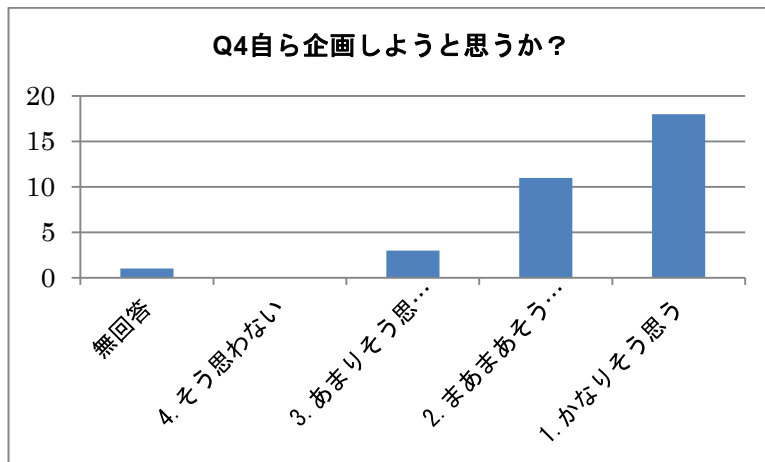


無回答	0
4. そう思わない	0
3. あまりそう思わない	1
2. まあまあそう思う	8
1. かなりそう思う	24

### Q3コメント

- ◇ 姿勢の整え方はかなり使えると思う。クッションが病棟には少ないのでバスタオル使用はかなり使いそう。食事介助は、スタッフ間での練習が必要。
- ◇ Q2で回答した通りだが、今後必要であろう技術なので、必要時に活用していきたい。
- ◇ 姿勢の保持の大切さ、実技をして目からの情報の大切さ、介護者へ自分が食べている姿と同じにして下さいと言える様になった。
- ◇ ベッド上でも車椅子上でも体位の保持が重要だと分かった。多忙な中でどこまで実施できるか分からないが、周りのスタッフにも声をかけ、必要性・重要性を理解してもらってyっていききたいと思う。
- ◇ 急性期病棟なので、入院時 NPO となってしまう事も多く、飲水テストを行う時には大分嚥下も弱く認知症も進んでいたり難しく感じる場合が多くありました。点数ばかり考えていましたが、今回ポジショニングの大切さを学び、いかせていけると思います。ただ、時間に追われる事も多いのでどのくらい実践できるかという不安はあります。
- ◇ 患者様に介助をしているので、すくう時から患者様に見せながら行うことで食べやすくなることが分かった。
- ◇ 車椅子やベッド上でのポジショニングなど、自分が患者役をおこなって安全で嚥下しやすい体位を知ることができたため実践していきたい。
- ◇ 湯布院町の食の連携チームを立ち上げているのでその中のセミナーで食事介助技術を伝えていきたくと思っています。
- ◇ ベッド上での体位の取り方や食事介助の時の患者さんの目線などに気を付けていくこと。背抜きをしっかりとすることを実践していきたいです。
- ◇ 嚥下リハビリ・ポジショニングはリハビリの方に任せきりなので、看護師も積極的に関わっていききたい。急性期病棟でも活躍できると自信が持てそうです。
- ◇ ポジショニングの大切さ、視覚情報の大切さ、目線がどこを向いているか気にしながら介助ができると思う。
- ◇ 日頃行っている評価法の悪い癖などに気付いた点を、今後活かしていこうと感じました。
- ◇ スクリーニングや姿勢の大切さについてははかつようできる。できないのは一人での準備・目配り。
- ◇ 胃瘻の口腔ケアで伺っている方もかなり多いので、ご本人の希望があれば口から食べる第一歩を提供できる手助けとなりたい。
- ◇ 在宅の患者様の食事指導(介助者の介助の仕方)機能評価。
- ◇ 職場(デイ・特養・老健)にての食事介助の際に活用できます。
- ◇ 高齢の親の将来に役立つと思うし、現在は無職だが復職の折に高齢者の患者様にアドバイスできたり在宅に行ったときに役立つと思う。
- ◇ 実際の食事介助の仕方(食べ物の見せ方・スプーンの角度・スピードなど)を教えて頂いたので問題に対して(開口できないなど)ピンポイントでアプローチできると考えます。
- ◇ ベッド上での摂食嚥下の評価と介助
- ◇ 全ての場面で活用できると思います。評価～訓練～生活支援まで。
- ◇ 多職種で理解を深めたいと思う。本だけ読んでいてもやはり実技はやったりやってもらったりして分かることが非常に多かった。
- ◇ 病院で患者様の食事介助をやっています。とても役に立ちました。
- ◇ 食べるスピードを患者様に合わせてゆっくりしていたつもりだったが、逆にスピーディにした方が良いのが分かった。
- ◇ 食事介助の場で活用したいと思います。
- ◇ 足底の調整方法、ポジショニング、スクリーニング
- ◇ 嚥下を促すスプーンの使い方、(舌を押し)はすぐにやってみたくと思います。又、姿勢についてもテキストで見たものを実際に体験できたので、肘の位置などチェックしていこうと思います。
- ◇ まだ実力がたりないと思いました。
- ◇ セミナーに参加する度新しく学ぶので職場で活かしたい。
- ◇ 今まで全介助していた利用者様を手を添えて口元に誘導する介助に変えて食事が自立できるようにしていきたいと思います。
- ◇ 歯科診療の在宅、往診の際、臥床している患者様の食事など、ご家族様へのアドバイス。グループホームでの食事の際の姿勢保持。食事支援。
- ◇ 食事介助の時、姿勢を正しくすることができる。
- ◇ 今日実技で習った介助の仕方を実践する。ベッド上でのゼリー食開始。

## Q4 自ら企画しようと思うか



無回答	1
4. そう思わない	0
3. あまりそう思わない	3
2. まあまあそう思う	11
1. かなりそう思う	18

### 【コメント一覧】

- ◇ 12月に病院で行います。家族・地域の人にできたらいいな。
- ◇ VE・VFに頼って評価しているところがある。包括的にみることを知ってほ。しいので、講義を含め周知していきたい
- ◇ 各業種と連絡を取り、行っていくにはまだ私の力では無理かなと思いますが、時間をかけながらも、できるようになっていければ良いと思います。
- ◇ 自分一人だけの知識にしておくのはいけないと思う。全スタッフで取り組んで皆が同じレベルの食事介助ができるようになれば、どんどん口から食べられる患者さんが増えると思うのでやっていきたいと思う。
- ◇ 皆で統一した介助ができると患者様の回復がより早くなると思うので。
- ◇ 自分の病院で小山さんのような方がいて下さる事もあり、人に教えられるような知識や技術はまだありません。
- ◇ Q4と同じ、地域につながるよう、活動を進めています。マネジメントと実践力両方を備えていきたいと考えています。
- ◇ 自分で考え方、手技をきちんと理解して他のスタッフにも教えられるように頑張ります。
- ◇ まずは病棟から広めていきたいと思います。
- ◇ 伝達していきたいが、1人ではなかなか難しいので、まずは協力者を増やしていきます。
- ◇ 現在は母の為に参加しましたが、これを多くのシアトルの患者さまにも役立てたい。
- ◇ 特に施設長や職員達に行きたい
- ◇ 施設の職員さんに利用者の方々の「食べる喜び」について意識が変われば食上げにも協力しえもらえるかも。
- ◇ 職場で口腔ケア研修会などを行っておりますので、企画させていただきたいと思います。
- ◇ 訪問分野(在宅9でも取り入れられると思う。
- ◇ できたらやってみたいです。
- ◇ 他の専門職の方にもこのようなセミナーに参加費ももらいたいです。
- ◇ 自分が得た物を他の職員に理論と合わせて伝えていきたいと思います。
- ◇ 企画したいと思うが教えるまではまだ自信がない。
- ◇ 私の今の立場ではなかなか難しいですが、専門職と一緒に企画して施設全体で食事介助に力を入れていきたいと思います。
- ◇ 介護施設ではボランティアという立場上強く提言できませんが、食事、口腔ケアの際にアドバイスという形で行っていききたいと思います。
- ◇ セミナーを知らせることはできそう。

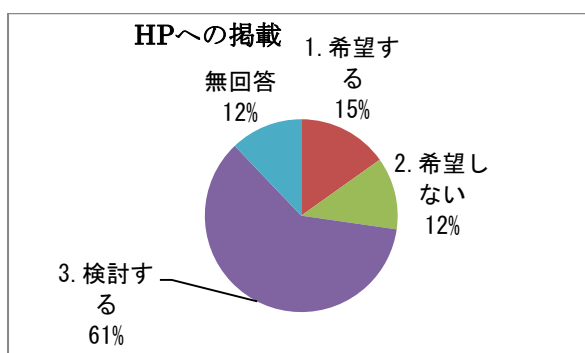
## Q5 今後取り上げてもらいたい内容は

### 【コメント一覧】

- ◇ 嚥下機能は十分あるのに口を開けてくださらない方への実践的なアプローチ方法
- ◇ もう少し具体的な症例・円背・在宅などシチュエーションに分けて。口腔ケアのスキル。食事携帯などの工夫。
- ◇ 食べている人が今後も継続して食べていけるようにしていくにはどのような点を行っていくべきか知りたい。
- ◇ 口腔ケアの実施方法
- ◇ 次のステップアップに向けてまた学んでいきたいと思えます。具体的な事例展開を示して頂けるとよりイメージできるのかと思いました。
- ◇ 口腔ケアやマッサージ・舌のトレーニングなど。
- ◇ 今日のようなセミナーの回数や場所が増えると良いなと思いました。沢山の人の参加してほしいです。
- ◇ 認知症患者に対する対応。評価などについて。
- ◇ 主治医・施設長との交渉と早期結果を出せる関係性作り。
- ◇ ケースプレゼンテーション
- ◇ 認知症の先行期の問題や、送り込みが困難な方など慢性期の方への食事介助方法なども行っていただけたらと思います。
- ◇ 知的障害・精神障害の方への介助方法。

## Q6 HP への掲載について

1.希望する	5
2.希望しない	4
3.検討する	20
無回答	4



### その他コメント

- ◇ 職場の状況によりますが、もし状況が合えば教えてほしいです。
- ◇ 日頃の評価の問題点としてムセや発熱が起きてスクリーニングを含めた評価という流れが多かったが、その前に食事の姿勢などを評価していくことに戻ることを忘れないようにしたいと感じた。
- ◇ 私は次回見る患者様で口から食べるのを望まれているのに叶わない方がいらっしゃったら、KT バランスチャートをつけ評価するところから始めその方のでだすけとなれるようつくします。
- ◇ 行動目標：左手でも介助できるよう小鉢は左手で食べる。
- ◇ 今後私は、それぞれの患者様に適した食形態を提供し、食事介助などをするにより、本当に提供した食事が合っているかどうか、見ていきたいです。
- ◇ とりあえず来年介護福祉士の資格を取りたいと思っています。

各グループ写真・実技演習風景



1G



2G



3G



4G



5G



6G



7G



ベッドサイドスクリーニング評価



車椅子でのセルフケア能力を  
高めるための食事介助



ベッド上でのセルフケア能力に応じた  
食事介助



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました